

## 南海トラフの地震活動の長期評価改訂について

- 令和7年9月26日、政府の地震調査委員会から、  
隆起量データ（室津港・高知県）に不確実性（誤差）があるとの新たな知見を踏まえ、  
 南海トラフ巨大地震の今後30年以内の発生確率（令和7年1月1日時点）について、  
 「60%～90%程度以上」と示されました。  
 ⇒ すべり量依存BPTモデル（今後30年以内の発生確率 60%～90%程度以上）

- 地震発生履歴のみを考慮した「BPTモデル」も提示（“20%～50%”）

	計算モデル	使用データ	相対的評価	今後30年以内の発生確率
見直し前	—	隆起量データ 地震発生履歴	Ⅲランク	80%程度
見直し後	すべり量依存 BPTモデル	隆起量データ 地震発生履歴	Ⅲランク	60%～90%程度以上
	BPTモデル	地震発生履歴	Ⅲランク	20%～50%

※30年以内の発生確率が26%以上の場合は、最も高い「Ⅲランク」

